

2023 年度 入試向け

プレテスト第一回問題

解答用紙	．．．．．	P.1-2
国語問題	．．．．．	P.3-16
算数問題	．．．．．	P.17-21
回答と配点	．．．．．	P.22-23
算数解説	．．．．．	P.24-25
国語解説	．．．．．	P.26-34
成績参考資料	．．．．．	P.35
合格判定基準	．．．．．	P.36
教科別総括	．．．．．	P.37
教科概評	．．．．．	P.38



桃山学院高等学校
St. Andrew's School



202310030

2023年度 入試向け

桃山学院中学校 プレテスト第1回 算数 解答用紙

受験番号				名前
P	0	0	0	0
	1	1	1	1
	2	2	2	2
	3	3	3	3
	4	4	4	4
	5	5	5	5
	6	6	6	6
	7	7	7	7
	8	8	8	8
	9	9	9	9

1	(1)		(2)	
	(3)		(4)	時間 分 秒

2	(1)	枚	(2)	cm
	(3)	L	(4)	円
	(5)	分間	(6)	度

3	(1)	cm	(2)	cm ²
----------	-----	----	-----	-----------------

4	(1)	A cm, B cm	(2)	分 秒後
	(3)	cm		

5	(1)	個	(2)	個
----------	-----	---	-----	---

6	(1)		(2)	
	(3)	上から 段目, 左から 列目		

合 計
※

二〇二三年度 入試向け

桃山学院中学校 プレテスト第一回 問題

国語
【五十分・百五十点】

注意事項

- 1 問題用紙は1ページから14ページまであります。
- 2 「開始」の合図があるまで問題用紙は開いてはいけません。
- 3 受験番号と名前を解答用紙と問題用紙に正しく記入してください。
- 4 解答用紙の余白には何も記入しないでください。
- 5 計算機能付き腕時計・携帯電話は使用禁止です。
- 6 「終了」の合図で筆記具を置き、監督の先生の指示に従ってください。

受験番号				名前	
P					

① 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(字数制限がある)
問いは、句読点とその他の記号も一字に数える)

もう十年ほど前になる。友人に誘われてヨガに行った。書いてばかりいる生活で、体が固まっているのを①見かねて声をかけてくれたのである。

最初の教室で、ヨガの先生が指摘したのは、体が硬いことよりも——それは自明なことだった——呼吸が浅いという問題だった。「ちゃんと吐けていないようですね。深く吐かないと深く吸えません。まず、吐くことから始めましょう」

当時の私にとって呼吸とは、いかに深く吸うかということであり、「吐く」ことの重みはあまり感じられていなかった。だが、②よく考えてみれば当然で、空になったコップでなければ、十分に水を注ぐことはできない。

まず、吐き切ることが問題になった。やってみると容易ではない。つまり、時間をかけてゆっくり吐き、同様に吸うのである。これを肺だけでやってもうまくいかない。ヨガの先生の表現を借りれば、指の先まで息が沁みわたるように呼吸ができなければならぬ。

今はもうヨガには通っていない。専門家から見れば、今も私の呼吸は浅いのだろうが、かつてのようではない。仕事や心配事どころが乱れることがあっても、まず、呼吸を整えるようになった。

ヨガに通い始める前は、自分の体が硬くなっているという現実が気が付かなかった。それが日常化していたのである。

今も身体は硬いが、当時よりは格段によくなった。まず、硬く

なりつつあることが分かる。分かれば対処ができる。

食事や入浴、あるいは散歩など、さまざまな習慣があるが、呼吸ほど頻繁に行われる営みはない。人は、寝ているときですら呼吸をしている。

呼吸に変化が生じてくると生活にも違いが出てくる。世の中ではさまざまなことが呼吸的に行われていることが分かってくる。

たとえば、③話すという行為も呼吸の深度によって性質が変わってくる。独りて話すことを独話という。誰かと言葉を交わすことを会話という。そして、深いところをつながらながら言葉や経験の深みを探るのが対話だ。

どんなに多く言葉を交わしても、互いの呼吸が合わなければ会話を留まり、対話にはならない。対話は、互いに呼吸の共鳴から始まる。

考えが浅いまま独話する。人はすぐに行き詰まる。袋小路に入っ出て出られなくなり、愚かなことを思い込むことすらある。④浅い独話は危険ですらある。

奇妙なもので、会話は、互いが一方的に話していてもどうにか成り立つのである。ときおり、カフェなどで原稿を書いていると、隣の人の声はどうしても耳に入ってくる。大きな声で、楽しそうに話しているのだが、よく聞いてみるとそれぞれが好きなことを話しているだけで、接点がほとんどない場合が少なくない。相手が受け止めていようがいまいが関係なく、ひたすら近況を話している。【あ】

こうしたことをどんなに繰り返しても、けっして対話にはならない。対話は、話者が自分の言いたいことを話したときに始まるのではなく、相手の「おもい」を受け止めたところに始まる。

「おもい」とひらがなで書いたのは、対話が始まる時、私たちが受容しなくてはならないのは、言葉にできる「思い」や「想い」だけでなく、その人の心の深いところにあつて、本人すらその全貌を知らない「念い」が、おぼろげながらも感じられなくてはならないからである。対話において人が、どうにかして相手に伝えたいと願うのは、言葉になる事象よりも、むしろ、言葉にならない「念い」なのではあるまいか。【5】

近代哲学の方向性を決定したとされるデカルトが、読書めぐって、次のように興味深いことを述べている。

すべて良書を読むことは、著者である過去の世紀の一流の人びとと親しく語り合うようなもので、しかもその会話は、これらの思想の最上のもので、それだけを見せてくれる、入念な準備のなされたものだ。

(デカルト『方法序説』谷川多佳子訳、岩波文庫)

「A」と記されているように、ここでは「会話」と訳されているが、その本質的意味は、先に述べた「対話」であることが分かる。

デカルトは、「読む」という営みも対話的に行われなくてはならない、と考えている。相手が語ることを受け止めるだけでなく、その言葉を受けて自らの内面で生じたことを声によって「語る」とは別の方法で、過去の賢者に送り届けなくてはならない、というのである。

それは「書く」ことにはかならない。デカルトは多くの本を読んだが、何よりも深く読んだ人だった。そして、その経験に呼

応するように深く書いた人だった。【6】

「読む」と「書く」はまさに、呼吸のような関係にある。「読む」は言葉を吸うこと、そして「書く」は吐くことに似ている。「読む」あるいは「書く」という営みは、世に言われているよりもずっと身体を使う。「あたま」だけでなく、心身の両面を含んだ「からだ」の仕事なのである。

さらにいえば、深く読むために多く本を読んでもあまりうまくいかない。【7】

書くことにおいても同じで、深く書きたいと思って、多く書いてもあまり「B」を奏さない。深く「読む」ためには深く「書く」必要がある。

「読む」を鍛錬するのは「書く」で、「書く」を鍛錬するのは「読む」なのである。「読む」と「書く」を有機的につなぐことができれば言葉の経験はまったく変わる。それを実現する、もっとも簡単な行為は、心動かされた文章を書き写すことなのである。【8】

本に線を引くだけでなく、その一節をノートなどに書き記す。じつに素朴な行為だが手応えは驚くほど確かだ。

「十読は一写に如かず」ということわざもある。一度書き写す、それは十回の読書に勝る経験になる、というのである。

近代以前の日本では、多くの人にとって、本を読むとは、持っている人から借りて、それを書き写すことだった。「読む」と「書く」を同時に行うことによって初めて、「読む」という行為が始まる。それが常識だった。

昔の人のように一冊全部を書き写すということがなかったとしても、①一篇の詩を書くことから始めてみるのがよいのかもしれない

ない。

(若松英輔「読書のちから」)

※(注) デカルト＝フランス生まれの哲学者、数学者。一五九六

～一六五〇。

問1 —— ①「見かねて」、⑥「有機的に」の本文中での意味と

して最も適切なものをそれぞれ後から選び、記号で答えなさい。

①「見かねて」

あ 見続けていたいと思って

い 見てもしかたがないので

う 見ていることができなくて

え 見ないではいられなくて

⑥「有機的に」

あ 互いに独立していても、統一がとれているように

い 互いに密接に関連し合って、統一されているように

う 互いの欠点を補って、全体としてまとまるように

え 互いに対立していても、全体として向上するように

問2 —— ②「よく考えてみれば当然で」とあるが、筆者はどの

ようなことをよく考えれば当然だと述べているのか。最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

あ 書いてばかりいる生活だと、体が固まってしまうこと。

い ヨガの先生の指摘どおりに、体が硬かったこと。

う 深く吐かないと、深く吸えないということ。

え 吐くことの重みが、あまり感じられなかったこと。

問3 ———③「話すという行為」のうち、「会話」と「対話」の違いについて、「一方的」「おもしろい」という二つの言葉を必ず使って、「会話は……であるが、対話は……だ。」という文になるように七十字以内で書きなさい。

問4 ———④「浅い独話は危険ですらある」とあるが、それはどうしてか。その理由として最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

あ 考えが浅いまま独話ばかりし続けると、会話や対話をする
ことが苦手になり、自然と自分一人の世界に閉じこもるよ
うになってしまうから。

い 考えが浅いままの独話は、物事が思い通りにいかなくなり
先に進めなくなってしまうことや、浅はかな思い込みから
ぬけだせなくなることをすらあるから。

う 考えが浅いまま独話することに慣れると、人と話すことに
よって得られる呼吸の深度が浅くなり、対話を生む呼吸の
共鳴が得られなくなってしまうから。

え 考えが浅いまま独話すると、精神的に行き詰まって愚かな
ことばかり考えるようになり、袋小路からぬけだそうとす
ることをあきらめるようになるから。

問5 [X]で示した文章によって紹介されているのは、デカルトの
どのような考えか。最も適切なものを後から選び、記号で答
えなさい。

あ 読書という営みは、著者との対話として行われなくてはな
らないという考え。

い 読書という営みは、著者が何者かとの対話を後世のために
まとめたものを独自に理解することだという考え。

う 読書という営みによって、実際に対話するときに困らな
くなるという考え。

え 読書という営みによって、対話するときに必要な知識
をしっかりと得られるという考え。

問6 [A]にあてはまる最も適切な言葉を、本文中のデカルト
の言葉の中から、六字以上八字以内でぬき出しなさい。

問7 ———⑤「それ」とあるが、「それ」の指す内容を説明した
次の文の [I]・[II] にあてはまる言葉を、それぞれの
(一)内の字数指定にしたがって、本文中からぬき出しな
さい。

※相手の言葉を受けて [I] (十二字) を言葉によって「語る」
ことによらずに、 [II] (五字) へ送り届ける方法。

問8 Bにあてはまる言葉として最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

あ 考 い 講 う 耕 え 功

問9 ⑦「一篇の詩を書くことから始めてみるのがよいのかもしれない」とあるが、それはどうしてか。その理由として最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

あ 「読む」あるいは「書く」という営みは、「あたま」だけではなく身体を使う仕事であり、一篇の詩を書くということによっても、いかに身体に負担がかかるかを実感できると思うから。

い 一篇の詩を書くという行為を経験することによって、「読む」というのは言葉を吸うことであり、「書く」というのは言葉を吐くことであるという対立関係の存在に気づくことができると思うから。

う 深く「読む」ためには深く「書く」ことが必要であり、たとえ一篇の詩を書き写すことでも、その詩を何度も読んでみることに勝るほどの経験になるということが、身をもって理解できると思うから。

え 近代以前の日本においては、本を読むということは本を持っていて人から借りて書き写すことだったので、一篇の詩を書くことで昔の人の苦労や努力をしのぶのも、意義があることだと思ふから。

問10 本文には、次の一文がぬけ落ちている。【あ】～【お】のうち、どこに戻すのが最も適切か。記号で答えなさい。

それでは吸ってばかりいることになる。

問11 次の①～④の各文について、本文の内容と照らし合わせて、正しければあを、間違っていればいを書きなさい。

- ① ヨガ教室には体の硬さを自覚して通い始めたが、先生から、時間をかけてゆっくり吐き、同様に吸うという指導を受けたことにより体の調子を改善させた。
- ② 「おもい」には、言葉として表現できる「思い」や「想い」の他に、本人でもその全体の姿が分からず、言葉として表現することも難しい、「念い」もふくまれている。
- ③ デカルトは深く読んだ人であると同時に深く書いた人であったが、その経験に呼応するように「読む」と「書く」ことは対話のように行われるべきであると主張した。
- ④ 深く読む、深く書くということを通じて、本を多く読んだり多く書いたりすることよりも、自分が感動した文章を書き写すことのほうが簡単である。

【二】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(字数制限がある)
問いは、句読点とその他の記号も一字に数える)

「わたし(持沢香衣)」は、庭のヤブツバキの下に座り、通りをながめていた。

道をおばあさんが歩いてくる。水色のブラウスを着て、こげ茶色のズボンをはいている。あのおばあさん、さつき、むこうにむかって歩いていったばかりだ。背中に茶色の小さなリュックをしょっている。

おばあさんは① 気難しそうな顔をしている。両手をふってゆっくりと通りすぎていく。

この道をまっすぐ行って、右にまがってしばらく行くと公園に着く。秋ちゃんが、もしかしたら公園で草を観察しているかもしれない。それとも、もしかしたら佐伯くんがいるかもしれない。

四年生のとき、公園に行ったら、すべり台の上に男の子がいた。すべり台に腰をおろして、ステレンスのすべり板に足を投げだしていた。男の子は本を読んでいた。転校してきたばかりの佐伯くんだった。佐伯くんはわたしに気づいていなかった。一心に本を読んでいた。わたしは声をかけようかとまよった。こんにちちは、つていおうかな、と。しばらくのあいだ、同じ場所にわたしは立っていた。そして、佐伯くんがふっと本から顔をあげ、わたしを見た。わたしはなにもいわず、公園から逃げだした。

水色のブラウスを着たおばあさんが道を歩いていく。さつきとは反対方向へ。ついさつき歩いていったばかりなのに、もう用事は

はすんだのだろうか。両手をふってゆっくりと歩いていく。

遠ざかっていく後ろ姿を見ていると、おばあさんの足が止まった。そしてくるりと向きを変えた。おばあさんはまたこっちにむかって歩きだした。

あれ、と思った。だれかの家をさがしているのかな。

② わたしはヤブツバキの下をてた。庭から家の前の道にてて、ぐるりと家をまわって下の道までおりていった。

おばあさんは道のまんなかに立ち止まっていた。

「こんにちは」とわたしはいった。

③ 緑町ですか、ここは」とおばあさんはいった。白い髪がきれいに切りそろえられている。困っているような顔をしている。

「ここは塚山ですよ」とわたしは教えてあげる。

「緑町はどこ?」

「さあ、わたし、わからないです」

「帰らなきゃいけないの。緑町の家に」

「歩いて帰るんですか? 緑町って、わたしは知らないんですけど」

「だって、帰らなきゃいけないのよ」

④ おばあさんは怒ったようにいう。

おばあさんの首からカードがぶらさがっている。そこになにかマジックで書いてある。わたし、はじめは電車に乗ったりするときに使う定期券かなにかかと思っていた。

「見てもいいですか?」と、わたしはおばあさんにきいた。

おばあさんはうなずいた。怒った顔のまま。

そっとカードに手をのばすと、「賀谷益恵です。ここに電話してください」と書いてあって、電話番号が書かれていた。

あ、と思った。このおばあさんは帰る家がわからなくなっているのかもしれない。いろんな記憶をなくして、それで困っている人なのかもしれない。

「ちょっとうちに来てください」と、わたしはおばあさんにいった。

「うち？ どこのこと？」

「ほら、この家です」と、わたしは自分の家を指さした。「電話で、緑町のことをききますから」

「あなたがきいてくれるの？」

「すぐききます。行きましよう」

わたしはおばあさんの手を取った。冷たい手だった。おばあさんはわたしの手をぎゅつとにぎりしめた。

おばあさんの歩調に合わせて、ゆっくり歩いた。

④ 秋ちゃんを保健室に迎えにいったときのことを思い出した。

図工の時間が終わって教室に帰ると、秋ちゃんはいなかった。

⑤ 六時間目がはじまっても席はあいたままだった。先生が「曽良さんは気分が悪くなったので保健室にいます」とみんなに話した。

秋ちゃんは写生をしていて、立ちあがろうとしたときよろけたのだ。「たちくらみてしょ」と、秋ちゃんが校舎へむかう姿を見て、大沢さんはいった。

秋ちゃんはゆっくり歩いて校舎に入っていた。わたし、だいたいしようぶ？ ってきいてあげたかった。教室に連れて行ってあげたかった。でも、できなかった。「大げさだよ」って、ほかの人からいわれる気がして。あのあと、秋ちゃんはひとりて保健室にも行ったのだ。どんな気持ちだっただろう。わたしは六時間目が終わると保健室にいそいで行った。でも、保健室には入ることが

できなくて、外で秋ちゃんがでてくるのを待った。秋ちゃん、もしかして病気になるっちゃったのかと、とても心配だった。

保健室からでてきた秋ちゃんは、いつもの秋ちゃんだった。わたしは秋ちゃんとならんで教室へもどった。秋ちゃんの歩調に合わせて歩いた。もしも秋ちゃんがまたよろけたら、ちゃんとささえてあげようと思った。でも、秋ちゃんはもうどこも悪くないみたいにしつかりと歩いた。

わたしはうちの玄関まで、おばあさんを連れていった。

玄関をあげ、おばあさんを家に入れた。

「ここにすわってください。電話を取ってきます」

おばあさんに玄関の上り口にすわってもらった。

いそいで電話の子機を取ってきて、おばあさんの胸にぶらさがっているカードの番号に電話をかけた。

すぐに女の人がでた。

「あの、わたしは持沢といいますけど、いまうちに賀谷さんがおられます。緑町をさがしておられます」といった。

「あらまあ。そうですか。ありがとうございます。母の姿が見えなくなったので、さがしていたんです。すぐに迎えにいきますので、ちょっとだけお宅にいさせていただけませんか」と女の人はいった。

わたしは家の住所と電話番号をいった。ホームセンターとスポーツジムが目印になることもいった。「壁が青色の家です」ともいった。

「だいたいどこあたりかわかりました。十五分くらいで着きます。そのあいだ、母をよろしくおねがいします」

そういつて、その人は電話を切った。

「桜子ちゃん」

おばあさんはわたしを見つめていった。おばあさんはもう

A はしていない。

「だれかに似てると思つてたの。なんだ、桜子ちゃんだったんだ」

おばあさんはとつてもなつかしそうにいう。

おばあさんが人ちがいをしているとわかつたけれど、わたしは、ちがいます、とはいわない。いうと、おばあさんが B 気がしたから。

「桜子ちゃん、わたし、のどがかわいちゃつた」とおばあさんはいう。

「じゃあ、すぐお水を持ってきますね」

⑥ わたしはいそいでキッチンに行つた。冷蔵庫から水のピッチャーをだし、グラスにそそいだ。それからテーブルのバスケットからおかきの小袋を一つ取つた。

おばあさんはちゃんと玄関にいた。

お水のグラスを渡すと、おばあさんは一息に飲みほした。「あー、やれやれ」といつて、グラスをわたしにもどした。

おかきをさしだすと、「ありがとう」といつて、おばあさんは袋を破り、おかきをばりばりと食べた。

「桜子ちゃんが編んでくれた手袋、とつてもあつたかいの」とおばあさんはいつた。

「そうですね」

C

D

E

F

「そんなに上手じゃないけど、桜子ちゃんはなんでも『おいし』つてほめてくれるでしょ。だからうれしくなつて作つちゃう」

家の前で車の止まる音がした。

家のチャイムが鳴るのと同時に、わたしは玄関のドアをあけた。

「お電話ありがとうございました」と女の人はいつた。

「緑町に帰りたいつていつておられました」

「そうですね。緑町は母の故郷の町です」

そういつて、女の人は「さあ、お母さん、帰りましょう。お迎えに来ましたよ」と、おばあさんにいつた。

「やれやれ、じゃあそうしましょう」

おばあさんは女の人にささえられて立ちあがつた。

「ほんとうにありがとうございました。お母さんはいらつしやる？」と、その人はわたしにきいた。

「いま、わたしだけです」

⑦ まあ、あなたが母を？ ほんとうにありがとうございました。ではまた、お母さんがいらつしやるときに、あらためてお礼に参りますね」

そういつて、その人はおばあさんを家から連れだすと、車に乗せた。

「あの」とわたしはいつた。

「はい？」

「桜子さんて、だれですか？ わたしを桜子さんとまちがえてたみたいですよ」

「桜子さんは母の子どもだったときの一番の仲よしさんですよ」

もう亡くなられたんですけどね。そうですか、あなたをそう呼んだんですか」

そういうと、その人はもう一度頭をさげて、車に乗り込んだ。助手席にシートベルトをしてすわっているおばあさんはまっすぐ前を見ていた。

車がバックしているときも、おばあさんはわたしのほうは見なかった。どこか遠くのほうを見ていた。

(岩瀬成子「わたしをあのこ あこのわたし」)

※(注1) 秋ちゃん姓は、曾良。「わたし」のクラスメート。

(注2) 佐伯くん「わたし」のクラスメート。

(注3) 大沢さん「わたし」のクラスメート。

(注4) ピッチャー耳型の取っ手と注ぎ口をもつ水差し。

(注5) バスケット植物の枝や草などを編んで作った容器。

問1 —— ①「気難しそうな顔」とあるが、ここではどのような表情のことを表しているか。最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

あ 人を寄せつけない、機嫌きげんの悪わるそうな表情。

い 気分がすぐれず、苦しそうな表情。

う 心配ごとによって、落ちこんだ表情。

え 心が満たされず、悲しそうな表情。

問2 —— ②「わたしはヤブツバキの下をた」とあるが、このときの「わたし」の様子について説明したものとして最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

あ 同じところを行ったり来たりしている、水色のブラウスのおばあさんに興味をもち、親しくなろうと思いついた。

い 水色のブラウスのおばあさんが迷子になってしまったのなら、自分の家に連れて帰って保護しようと思いついた。

う 道に迷っている水色のブラウスのおばあさんのことが心配になり、おばあさんの身元みもとを確認しようと思いついた。

え 水色のブラウスのおばあさんがだれかの家を見つけれず迷っているようなら、教えてあげようと思いついた。

問3 — ③「おばあさんは怒ったようにいう」とあるが、それはどうしてか。その理由として最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

あ 自分で歩いて帰りたいと思っている緑町にある家がわからず、イライラしているから。

い 緑町にある家などないことは知っているが、それにこだわる自分にうんざりしているから。

う 自分の家の誰も、外をうろつく自分をそのままにしておいて捜しに来ようとしてもしないから。

え 「わたし」が、緑町の家はどこにあるのかを知っているのに、教えてくれないから。

問4 — ④「秋ちゃんを保健室に迎えにいったときのことを思い出した」とあるが、「わたし」は具体的にどのようなことを思い出したのか。それについて説明した次の文の□にあてはまる言葉を、()内の字数指定にしたがって本文中からぬき出し、最初の六字を書きなさい。

※もし、秋ちゃんが□(二十字)□^{あしな}と思い、秋ちゃんと足並みをそろえて歩いたこと。

問5 — ⑤「六時間目がはじまっても席はあいたままだった」とあるが、秋ちゃんの席を見たときの「わたし」の気持ちを説明したものとして最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

あ 立ちあがろうとしてよろけた秋ちゃんが、一人で保健室へ行くことができたことに安堵する気持ち。

い 保健室に向かった秋ちゃんのそばに、別の友だちがよりそっていたことをくやしく思う気持ち。

う ほかの人の言葉を気にして、よろけた秋ちゃんのことを助けてあげなかったことを後悔する気持ち。

え よろけた秋ちゃんに対して、大げさだと言う人を注意できなかったことを情けなく思う気持ち。

問6 — A□□□□にあてはまる最も適切な言葉を、本文中から四字でぬき出しなさい。

問7 — B□□□□にあてはまる言葉として最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

あ ひどくあわてそうな

い かなりびっくりしそうな

う もっとぼんやりしそうな

え とつてもがっかりしそうな

問8 — ⑥「わたしはいそいでキッチンに行った」とあるが、キッチンに水をくみに行った「わたし」は、なぜいそいだのか。その理由として最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

あ 目をはなしたすきに、おばあさんが玄関からいなくなってしまうかもしれないと思ったから。

い のどがかわいているおばあさんのことを心配して、少しでも早く飲み物を用意してあげたかったから。

う 飲み物をほしがっているおばあさんを待たせるのは気が引けるので、すぐに準備しようと考えたから。

え 目をはなしたわずかなすきに、おばあさんの知人から連絡があるかもしれないと不安になったから。

問9 C · D · E · F にあて

はまる言葉として適切なものを後からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

あ よかった

い お料理、上手なんですね

う 帽子も編んでくれたじゃない。わたしとっても大事にしているのよ

え わたし、こんどの桜子ちゃんのお誕生日に、そうねえ、ちらし寿司を作って持ってきてあげようかな

問10 — ⑦「まあ、あなたが母を？」とあるが、このように言ったときの「女の人」の気持ちについて説明した次の文の [] にあてはまる言葉を、() 内の字数指定にしたがって、本文中からぬき出しなさい。

※幼い「わたし」が、[] (六字) をなくしたおばあさんを保護した上、自分に知らせてくれたことに驚いている。

問11 本文中で描かれている「わたし」の人物像の説明として最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

あ おばあさんに献身的な態度で接している「わたし」は、思っていることを素直に行動にうつせなかった過去をもつ人物である。

い おばあさんの近寄りが見たい態度にも気後れしない「わたし」は、相手の態度に遠慮して本心をいつわった過去をもつ人物である。

う 周りの人間の視線や態度を気にしすぎる「わたし」は、おばあさんを助けようとする行動がどことなくこちない人物である。

え おばあさんに対して積極的に声をかける「わたし」は、うまくもった行動力で色々な問題を解決することのできる人物である。

問12 あるクラスで、国語の時間に本文の内容について話し合っ

た。次に示すのは、本文に登場する「おばあさんと桜子ちゃん」の関係、「わたし」の思い、さらには、本文の主題について話し合っている小林さんたちの様子である。本文の内容をふまえて、X・Y・Zにあてはまる言葉を、X・Yはそれぞれの()内の字数指定にしたがつて本文中からぬき出し、Zは後から選び、記号で答えなさい。

小林 道に迷っているおばあさんは、「帰らなきゃいけないの。緑町の家に」って言っているけれど、「緑町」ってどこ？

中西 おばあさんを迎えに来た「女の人」は、おばあさんのX(四字)だと言っているよ。

板原 ということは、おばあさんは、今のことは理解できないけれど、昔のことは覚えているということだよ。

大島 同じことは、桜子ちゃんにも言えると思うよ。「もう亡くなられた」と「女の人」は言っているけれど、おばあさんの頭の中では、桜子ちゃんはずっと生きているんだ。

小林 確かに、桜子ちゃんは、おばあさんが子どもだったときのY(八字)だと言っているね。

中西 おばあさんにとって、桜子ちゃんは忘れることのない人だと思うんだ。

板原 ところで、「わたし」は、おばあさんを家の中に入れて、秋ちゃんのことを思いだしているね。

大島 「わたし」は、立ち上がろうとしてよろけた秋ちゃんに、教室にもどろうとしたときに、いっしょに行つてあげなかったことをずっと気にしていると思うんだ。

小林 そういうことがあったので、「わたし」は、おばあさんに親切にしているんだね。

中西 つまり、「わたし」は、Zんだね。

大島 なるほど。きつとそうだね。

あ 桜子ちゃんのようになりたいたいと思っている

い おばあさんと秋ちゃんを重ね合わせている

う 秋ちゃんの心配をしなかったことをわびている

え おばあさんと桜子ちゃんにつながりに感動している

【三】 次の各問いに答えなさい。

問1 次の——線部のカタカナを漢字に直して書き、漢字は読みをひらがなで書いて答えなさい。

- ① 教育制度カイカク。
- ② 道路のジョセツ作業。
- ③ 火山灰がふる。
- ④ おこづかいを奮発する。
- ⑤ 社長に就任する。
- ⑥ 肥えた土地。

問2 次の各語が対義語（意味が反対の言葉）の組み合わせになるように、□に共通して入る漢字一字を後のカタカナから選び、漢字に直して答えなさい。

- ① 高 □ ↓ 安 □
- ② 好 □ ↓ 悪 □
- ③ 空 □ ↓ 満 □
- ④ 往 □ ↓ 返 □

ハン	フク	カ	ビョウ
ダイ	ヒョウ	カク	シン

【四】 次の各問いに答えなさい。

問1 □にあてはまる生き物の名前をひらがなで書き、語句を完成させなさい。また、その意味を後から選び、記号で答えなさい。

- ① □ にかつおぶし
- ② □ の威をかるきつね

あ 力のある者を利用していばるることのたとえ。
 い 人の意見を聞かないことのたとえ。
 う 過ちが起こりそうなくない状況のたとえ。
 え ごくわずかなことのたとえ。

問2 次の①～⑥の四字熟語の中に、誤った表記のものはいくつあるか。その数として最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

- ① 一挙兩徳
- ② 短刀直入
- ③ 因果応報
- ④ 絶対絶命
- ⑤ 日進月歩
- ⑥ 心気一転

- あ 二つ
- い 三つ
- う 四つ
- え 五つ

問3 次の文中の□が直接かかる言葉をそれぞれあ～きから
選び、記号で答えなさい。

- ① 右手に ② 赤い ③ カサを ④ 持った ⑤ 女の子は、
⑥ クラスメートの ⑦ 山中くんの ⑧ 妹だ。
⑨ グラフの ⑩ たくさん ⑪ 入った ⑫ 本は、
日本の ⑬ 輸出入に ⑭ 関する ⑮ 解説書だ。

問4 次の①～⑤の各文について、日本語として正しければあを、
間違っていればいを書きなさい。

- ① 寝る前の習慣は、その日にあったことを日記に書く。
② お待たせいたしました、私が会長の山本です。
③ 母から、手ざわりのよいハンカチをもらった。
④ 幼なじみの二人は大親友で、気のおける仲だ。
⑤ 先生、大きなお世話をいただき、感謝申しあげます。

以上で問題は終わりです。

2023年度 入試向け
桃山学院中学校 プレテスト第1回 問題

算 数

【50分・150点】

注 意 事 項

- 1 問題は1ページから5ページまであります。
- 2 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
- 3 円周率は、3.14とします。
- 4 「開始」の合図があるまで問題用紙は開いてはいけません。
- 5 受験番号と名前を解答用紙と問題用紙に正しく記入しなさい。
- 6 計算機能付き腕時計・携帯電話は使用禁止です。
- 7 「終了」の合図で鉛筆を置き、監督の先生の指示に従いなさい。

	受 験 番 号	名 前
P		

1 次の にあてはまる数を答えなさい。

(1) $540 \div (72 - 16 \times 3 + 12) = \text{$

(2) $12.34 \times 567 - 24.68 \times 281 = \text{$

(3) $\left(\frac{9}{14} \times 2\frac{11}{12} - 0.75\right) \div \text{$ = 2

(4) 26874秒 = 時間分秒

2 次の問いに答えなさい。

(1) たて 84cm, 横 60cm の長方形の紙からあまりが出ないように, できるだけ大きな同じ大きさの正方形を切り取ると, 正方形は何枚切り取ることが出来ますか。

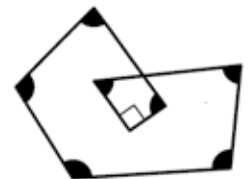
(2) 時速 4.5km の速さで歩くと 40 分かかる道のりは, 縮尺 $\frac{1}{25000}$ の地図上では何 cm で表されますか。

(3) 水そうに入っていた水の $\frac{2}{5}$ にあたる量の水を水そうの水に加えたところ, 水そうの水の量の合計が 168L になりました。はじめに水そうに入っていた水の量は何 L ですか。

(4) 太郎さん, 桃子さん, 健太さんの 3 人が持っているお金の合計は 17000 円です。太郎さんと桃子さんの持っているお金の比が 9 : 8, 桃子さんと健太さんが持っているお金の比が 12 : 17 のとき, 健太さんが持っているお金は何円ですか。

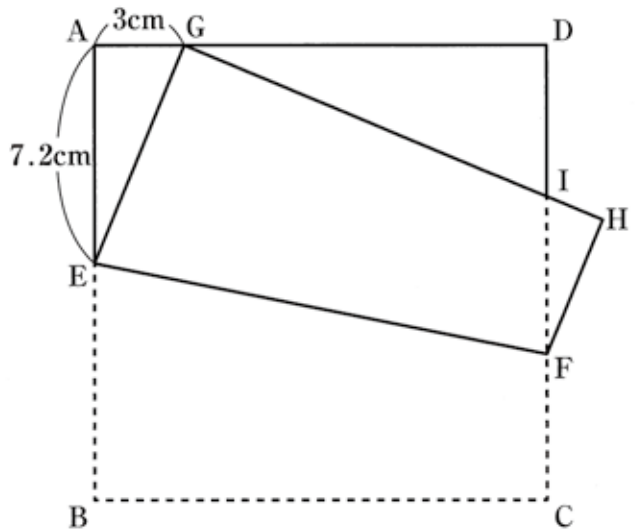
(5) 父, 母, 子どもの 3 人で電車に乗りました。座席が 2 つしか空いていなかったのに, 父と母それぞれの座る時間が子どもの 2 倍になるように, 交代で 1 人が立つことにしました。電車に乗っている時間が 30 分のとき, 子どもが立っていた時間は何分間ですか。

(6) 右の図で黒く印をつけた角の和は何度ですか。



- 3** 右の図の四角形 ABCD は 1 辺の長さが 15cm の正方形です。この正方形を EF で折り返すと、点 B が辺 AD 上の点 G に、点 C が正方形の外の点 H に移り、GH と FD が点 I で交りました。次の問いに答えなさい。

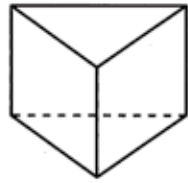
- (1) DI の長さは何 cm ですか。
- (2) 三角形 FHI の面積は何 cm^2 ですか。



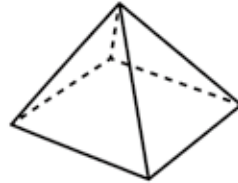
4 長さのちがう2本のろうそく A, B があります。ろうそく A の長さは 15cm で、火をつけると一定の速さで短くなり 20 分後に燃えつきてなくなります。ろうそく B の長さは 18cm で、火をつけると一定の速さで短くなり 15 分後に燃えつきてなくなります。ろうそく A, B に同時に火をつけたとき、次の問いに答えなさい。

- (1) ろうそく A, B はそれぞれ毎分何 cm ずつ短くなりますか。
- (2) ろうそく A, B の残りの長さが等しくなるのは、火をつけてから何分何秒後ですか。
- (3) ろうそく B の残りがある長さになった 2 分後に、ろうそく A の残りの長さがその長さになりました。ある長さは何 cm ですか。

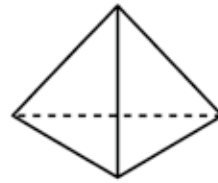
- 5** 辺の長さがすべて 1cm である正三角柱, 正四角すい, 正三角すいが合わせて 50 個あります。面の数はぜんぶで 229 あり, そのうち正方形の数は 65 です。次の問いに答えなさい。



正三角柱



正四角すい



正三角すい

- (1) 正三角すいは何個ありますか。
- (2) 正四角すいは何個ありますか。

6 整数を1から順に、右の図のように並べていきます。
 このとき、次の問いに答えなさい。

- (1) いちばん上の段の左から10列目の数はいくつですか。
- (2) 上から5段目で左から8列目の数はいくつですか。
- (3) 222は上から何段目で左から何列目の数ですか。

	1列目	2列目	3列目	4列目	...
1段目	1	3	6	10	・
2段目	2	5	9	・	・
3段目	4	8	・	・	・
4段目	7	・	・	・	・
⋮	・	・	・	・	・

以上で問題は終わりです。

2023年度 入試向け

桃山学院中学校 プレテスト第1回

解答と配点

目次

解答

1 国語 (50分・150点) P. 1

2 算数 (50分・150点) P. 1

配点 P. 2

解 答

国 語

- 一 問1 ① う ⑥ い 問2 う
問3(例) 会話は互いが一方的に話しても成り立つものであるが、対話は相手の「お
もい」を受け止めて深いところにつながりながら言葉や経験の深みを探るも
のだ。[70字]
問4 い 問5 あ 問6 親しく語り合う
問7 I 自らの内面で生じたこと II 過去の賢者 問8 え
問9 う 問10 【え】 問11 ① い ② あ ③ い ④ あ
- 二 問1 あ 問2 え 問3 あ 問4 またよろけた
問5 う 問6 怒った顔 問7 え 問8 あ
問9 C う D あ E え F い 問10 いろんな記憶
問11 あ 問12 X 故郷の町 Y 一番の仲よしさん Z い
- 三 問1 ① 改革 ② 除雪 ③ 降(る)
④ ふんばつ ⑤ しゅうにん ⑥ こ(えた)
問2 ① 価 ② 評 ③ 腹 ④ 信
- 四 問1 ① ねこ・う ② とら・あ 問2 う
問3 ① う ② お
問4 ① い ② あ ③ あ ④ い ⑤ い

算 数

- 1 (1) 15 (2) 61.7 (3) $\frac{9}{16}$ (4) 7時間27分54秒
- 2 (1) 35枚 (2) 12cm (3) 120L (4) 6800円
(5) 18分間 (6) 630度
- 3 (1) 5cm (2) 4.8cm²
- 4 (1) A 0.75cm, B 1.2cm (2) 6分40秒後 (3) 6cm
- 5 (1) 21個 (2) 11個
- 6 (1) 55 (2) 74 (3) 上から10段目, 左から12列目

配 点

国 語

一 問1…各2点
問4…4点
問7…各4点
問10…4点

問2…4点
問5…4点
問8…2点
問11…各2点

問3…8点
問6…4点
問9…4点

合計 54点

二 問1…2点
問4…4点
問7…4点
問10…4点

問2…4点
問5…4点
問8…4点
問11…4点

問3…4点
問6…4点
問9…6点 (完答)
問12…各4点

合計 56点

三 各2点

合計 20点

四 各2点 (問1各完答)

合計 20点

算 数

1 各8点
2 各8点
3 各8点
4 各6点
5 各9点
6 各6点

合計 32点

合計 48点

合計 16点

合計 18点

合計 18点

合計 18点

2023年度入試向け プレテスト第1回

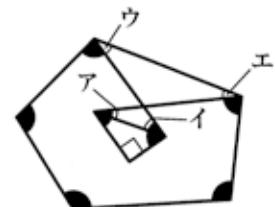
解説

1 計算問題

- (1) $540 \div (72 - 16 \times 3 + 12) = 540 \div (72 - 48 + 12) = 540 \div (24 + 12) = 540 \div 36 = 15$
- (2) $12.34 \times 567 - 24.68 \times 281 = 12.34 \times 567 - 12.34 \times 2 \times 281 = 12.34 \times 567 - 12.34 \times 562$
 $= 12.34 \times (567 - 562) = 12.34 \times 5 = 61.7$
- (3) $\frac{9}{14} \times 2 \frac{11}{12} - 0.75 = \frac{9}{14} \times \frac{35}{12} - \frac{3}{4} = \frac{15}{8} - \frac{3}{4} = \frac{9}{8}$, $\square = \frac{9}{8} \div 2 = \frac{9}{16}$
- (4) 1分 = 60秒, 1時間 = $60 \times 60 = 3600$ (秒)
 $26874 \div 3600 = 7$ あまり1674, $1674 \div 60 = 27$ あまり54より,
 26874 秒 = 7時間27分54秒

2 小問集合

- (1) 切り取る正方形の1辺は、たて84cmと横60cmの最大公約数12cm たてに、 $84 \div 12 = 7$ (枚), 横に、 $60 \div 12 = 5$ (枚), ぜんぶで、 $7 \times 5 = 35$ (枚)切り取ることができる。
- (2) 実際の道のりは、 $4.5 \times \frac{40}{60} = 3$ (km) $3\text{km} = 300000\text{cm}$ $300000 \times \frac{1}{25000} = 12$ (cm)
- (3) はじめに水そうに入っていた水の量を1とすると、水を加えた後の水そうの水の量は、
 $1 + \frac{2}{5} = \frac{7}{5}$ である。
 よって、はじめに水そうに入っていた水の量は、 $168 \div \frac{7}{5} = 168 \times \frac{5}{7} = 120$ (L)
- (4) 太郎さんと桃子さんの持っているお金の比が9:8, 桃子さんと健太さんが持っているお金の比が12:17だから、桃子さんの持っているお金を8と12の最小公倍数24にそろえると、太郎さんと桃子さんと健太さんの持っているお金の比は27:24:34である。
 よって、健太さんの持っているお金は、 $17000 \times \frac{34}{27+24+34} = 6800$ (円)
- (5) 3人で座るのべ時間、 $30 \times 2 = 60$ (分)が子どもの座る時間の、 $2 \times 2 + 1 = 5$ (倍)にあたる。
 子どもの座る時間は、 $60 \div 5 = 12$ (分), 立っていた時間は、 $30 - 12 = 18$ (分間)
- (6) 右の図でアとイの角の和がウとエの角の和に等しい。
 黒く印をつけた角の和は、外側の五角形の角と内側の直角三角形の角の和から直角をひいた大きさになる。
 よって、 $540 + 180 - 90 = 630$ (度)

**3** 拡大・縮小

- (1) 三角形 AEG と三角形 DGI は拡大・縮小の関係にあり、 $DG = 15 - 3 = 12$ (cm)
 $AE : DG = AG : DI$ だから、 $DI = 3 \times \frac{12}{7.2} = 5$ (cm)
- (2) $EG = EB = 15 - 7.2 = 7.8$ (cm) $AG : DI = EG : GI$ だから、 $GI = 7.8 \times \frac{5}{3} = 13$ (cm)

HI = 15 - 13 = 2(cm)で三角形 GDI と三角形 FHI は拡大・縮小の関係にあり、

$$DI : HI = DG : HF \text{ だから, } HF = 12 \times \frac{2}{5} = 4.8(\text{cm})$$

三角形 FHI の面積は、 $2 \times 4.8 \div 2 = 4.8(\text{cm}^2)$

4 速さ

- (1) ろうそく A は毎分、 $15 \div 20 = 0.75(\text{cm})$ 、ろうそく B は毎分、 $18 \div 15 = 1.2(\text{cm})$ ずつ短くなる。
- (2) はじめは B が A より、 $18 - 15 = 3(\text{cm})$ 長く、B が A より毎分、 $1.2 - 0.75 = 0.45(\text{cm})$ ずつ多く短くなる。残りの長さが等しくなるのは、 $3 \div 0.45 = 6\frac{2}{3}$ (分後) $60 \times \frac{2}{3} = 40(\text{秒})$ より、6分40秒後。
- (3) B の残りがある長さになったとき、A の残りの長さは B より、 $0.75 \times 2 = 1.5(\text{cm})$ 長い。火をつけてから B が A より、 $3 + 1.5 = 4.5(\text{cm})$ 多く燃えているから、 $4.5 \div 0.45 = 10(\text{分後})$ 10分後の B の長さは、 $18 - 1.2 \times 10 = 6(\text{cm})$

5 和と差の文章題

- (1) それぞれの立体1個の面の数と正方形の数は右の表のようになっている。

	正三角柱	正四角すい	正三角すい
面の数	5	5	4
正方形の数	3	1	0

50個すべてが正三角柱か正四角すいするとき面の数は、 $5 \times 50 = 250$ 正三角柱か

正四角すいを正三角すいに1個入れかえるごとに面の数は、 $5 - 4 = 1$ 減るから正三角すいは、 $(250 - 229) \div 1 = 21(\text{個})$ ある。

- (2) 正三角柱と正四角すいは合わせて、 $50 - 21 = 29(\text{個})$ ある。29個すべてが正三角柱のときの正方形の数は、 $3 \times 29 = 87$ 正三角柱を正四角すいに1個入れかえるごとに正方形の数は、 $3 - 1 = 2$ 減るから正四角すいは、 $(87 - 65) \div 2 = 11(\text{個})$ ある。

6 規則性

- (1) いちばん上の段の左から□列目の数は、1から□までの整数の和になっている。

$$1 + 2 + 3 + 4 + 5 + 6 + 7 + 8 + 9 + 10 = (1 + 10) \times 10 \div 2 = 55$$

- (2) 上から5段目で左から8列目の数は、 $8 + (5 - 1) = 12$ より、いちばん上の段の左から12列目の数の4つ前の数である。

$$\text{よって, } 1 + 2 + 3 + 4 + 5 + 6 + 7 + 8 + 9 + 10 + 11 + 12 - 4 = (1 + 12) \times 12 \div 2 - 4 = 74$$

- (3) 1から20までの整数の和が、 $(1 + 20) \times 20 \div 2 = 210$ だから、いちばん上の段の左から20列目の数の、 $222 - 210 = 12$ 後の数である。

よって、上から、 $20 + 1 - (12 - 1) = 10(\text{段目})$ 、左から12列目の数である。

一 説明的文章

問 1 語句の本文中での意味を答える問題です。——①「見かねて」の「かねる」には、「……しようとしてできない、……することがむずかしい」という意味があり、「行きかねる」「賛成しかねる」のように使います。友人は、「私」の体が固まっているのを見ていられなくて、ヨガ教室に誘ってくれたのです。したがって、「見ていることができなくて」とあるのが正解です。あ、いには、「かねる」の意味が反映されていないので、適切ではありません。えの「見ないてはいられなくて」は、二重否定の表現で、「見て」という意味になります。——⑥「有機的に」の「有機的」は、「多くの部分が結びついて全体をつくり、各部分の間に統一と関連がある様子」ということです。前の段落の「深く『読む』ためには深く『書く』必要がある」や直前の「『読む』を鍛錬するのは『書く』で、『書く』を鍛えるのは『読む』なのである」から、「読む」と「書く」には密接な関係があり、互いに互いが不可欠な存在であることが読み取れます。したがって、「互いに密接に関連し合って、統一されているように」とあるのが正解です。あの「互いに独立していても」、うの「互いの欠点を補って」、えの「互いに対立していても」は、いずれも不適切です。

問 2 内容理解の問題です。直前の「呼吸とは、いかに深く吸うかということであり、『吐く』ことの重みはあまり感じられていなかった」、直後の「空になったコップでなければ、十分に水を注ぐことはできない」に着目します。「私」は、ヨガ教室の先生から「呼吸が浅い」ことを指摘され、「深く吐かないと深く吸えません」と教えられました。「私」は、先生のこの教えを、「よく考えてみれば当然」のことだと今でも思っているのが、うが正解です。あ、い、えは、「吐く」と「吸う」こととの関係にふれていないので、適切ではありません。

問 3 内容を理解し、設問の指示にしたがって記述する問題です。筆者は、「話すという行為」には、「独話」「会話」「対話」の三つがあると述べています。設問は、「会話」と「対話」の違いについて問うているので、それぞれがどういうものかを正しくつかんでいきましょう。

【会話】

- ・誰かと言葉を交わすこと。
- ・どんなに多く言葉を交わしても、互いの呼吸が合わなければ会話に留まる。
- ・互いが一方的に話していてもどうにか成り立つ。

【対話】

- ・深いところをつながりながら言葉や経験の深みを探るもの。
 - ・互いに呼吸の共鳴から始まる。・話者が、相手の「おもい」を受け止めたところに始まる。
 - ・相手に伝えたいと願うのは、言葉になる事象よりも、言葉にならない「念い」ではないか。
- 設問の指定は、「一方的」「おもい」という二つの言葉を必ず使い、「会話は……であるが、対話は……だ。」という形の、七十字以内の文とあるので、それにしたがってまとめていき

ます。

例：※ **会話は互いが一方的に話しても成り立つものであるが、対話は相手の「おもい」を受け止めて深いところでつながりながら言葉や経験の深みを探るものだ。**

- 問4 内容理解の問題です。「独話」とは「独りで話すこと」です。筆者の、「浅い独話は危険ですらある」という考えは、直前の「考えが浅いまま独話する。人はすぐに行き詰まる。袋小路に入って出られなくなり、愚かなことを思い込むことすらある」を受けたものです。この内容に合っている、いが正解です。なお、「袋小路」とは「行き止まりになっている細い道」のことで、物事が行き詰まり先へ進めないことを表します。あは、「会話や対話をするのが苦手になり」と、「会話」や「対話」に触れているので不適切です。うは、「呼吸の深度が浅くなり、対話を生む呼吸の共鳴が得られなくなってしまう」の部分が浅い「独話」の危険と無関係なので不適切です。えは、「愚かなことばかり」と限定しているところや「袋小路からぬけだそうとすることをあきらめるようになる」など、本文にはないことがふくまれているので不適切です。
- 問5 内容理解の問題です。デカルトの「すべて良書を読むことは、著者である過去の世紀の一流の人びとと親しく語り合うようなもので」という言葉に着目します。「良書を読むこと」（読書）は、「過去の世紀の一流の人びとと親しく語り合うようなもの」（対話）だと述べ、「良書を読むこと」をすすめています。あは、「親しく語り合うこと」（対話）の重要性に触れているので適切です。いは、「著者が何者かとの対話を後世のためにまとめたものを独自に理解する」という部分が、読書そのものを対話としてとらえている☒で示した部分の内容と合っておらず、適切ではありません。うは、「実際に対話するときに困らなくなる」、えは、「対話するときに必要になる知識をしっかりと得られる」が、本文の内容に合っておらず、それぞれ適切ではありません。
- 問6 空欄にあてはまる語を選ぶ問題です。『方法序説』の日本語訳では「会話」になっていますが、筆者は、文章の本質の意味を考えれば、「対話」がふさわしいと思っています。その理由は、「親しく語り合う」という言葉が、筆者の考える「対話」の、「深いところでつながりながら言葉や経験の深みを探るもの」や「互いに呼吸の共鳴から始まる」に通じているからです。
- 問7 内容理解の問題です。指示語の指す内容を本文中から探します。指示語の指す内容は、原則として指示語の前にあります。また、指示語をふくむ文の構造にも着目します。「それは『書く』ことにほかならない」とは、「それ」は「書く」こと以外の何ものでもない、ということです。筆者は、「読む」という営みも対話的に行われなくてはならないと考えています。「対話」とは、一方的なものではなく、「親しく語り合う」ものです。したがって、こちらからも、相手に語りかける必要があります。では、だれ（語りかける相手）に、何を語りかければよいのでしょうか。——⑤の直前の段落の内容を見ていくと、「相手が語ることを受け止めるだけでなく、その言葉を受けて自らの内面で生じたことを声によって『語る』のとは別の方法

で、過去の賢者に送り届けなくてはならない」とあります。この部分から、語りかける相手とは「過去の賢者」であり、語りかける内容とは「(相手の言葉を受けて)自らの内面で生じたこと」であることがわかります。もちろん、「過去の賢者」とあるので、語りかける相手はもうこの世にはいません。それでも、「書く」ということが、「過去の賢者」に自分の「おもい」を送り届ける方法だというのが、筆者の主張です。

問8 語句に関する知識の問題です。「B」を奏さないで「うまくいかない」という意味になります。これに対して、「うまくいく、なしとげる」という意味の言葉が「功を奏す」です。したがって、えが正解です。

問9 内容理解の問題です。筆者は、「『読む』と『書く』はまさに、呼吸のような関係にある」「『読む』を鍛錬するのは『書く』で、『書く』を鍛えるのは『読む』なのである」と述べています。さらに、「『読む』と『書く』を有機的につなぐことができれば言葉の経験はまったく変わる。それを実現する、もっとも簡単な行為は、心動かされた文章を書き写すことなのである」と続けています。そのあとで、近代以前の日本では、本を読むとは、本を持っている人から借りて、それを書き写すことだったと述べ、「昔の人のように一冊全部を書き写す」ことがなくても、「書く」ことの重要性をふまえて、「一篇の詩を書くことから始めてみるのがよいかもしれない」と、「書く」という行為をすすめているのです。この内容に合っている、うが正解です。あは、「『あたま』だけではなく身体を使う仕事であり」や「いかに身体に負担がかかるかを実感できる」が適切ではありません。いは、「(『読む』ことと『書く』こと)の対立関係の存在に気づくことができる」が適切ではありません。えは、「一篇の詩を書くことで昔の人の苦勞や努力をしのぶのも、意義があることだ」が適切ではありません。

問10 ぬけている文を本文に戻す問題です。ぬけている文は、「それでは吸ってばかりいることになる。」ですので、「それ」が何を指すのかを手がかりにして、戻す場所を探していきます。筆者は、「『読む』と『書く』はまさに、呼吸のような関係」にあり、「読む」は言葉を吸うこと、「書く」は吐くことに似ている、と述べています。ここに着目すると、「それ」は、たくさん本を「読む」ことを指すのではないかと見当がつきます。戻す場所を見ていくと、「……深く読むために多く本を読んでもあまりうまくいかない。」のあとの【え】が適切だとわかります。

問11 本文の内容を理解して、それぞれの文の正誤を考える問題です。①～④の文が、それぞれ本文中のどの部分に対応しているかを探して考えていくとよいでしょう。①は、1ページ上段の内容にほぼ対応しています。本文中には、「友人に誘われてヨガに行った」「ヨガに通い始める前は、自分の体が硬くなっているという現実気が付けなかった」とあります。一方、①には「ヨガ教室には体の硬さを自覚して通い始めたが」とあるので、本文の内容に合致しません。②は、2ページの上段前半の内容に対応しています。本文中には、「言葉にできる『思い』や『想い』だけでなく、その人の心の深いところにあつて、本人すらその全貌を

知らない「念い」が、おぼろげながらにでも感じられなくてはならない」とあり、②の内容と合致しています。③は、2ページの上段後半の内容にほぼ対応しています。本文中には、「デカルトは、『読む』という営みも対話的に行われなくてはならない、と考えている」「デカルトは多くの本を読んだが、何よりも深く読んだ人だった。そして、その経験に呼応するように深く書いた人だった」とあります。これに対し、③には「デカルトは深く読んだ人であると同時に深く書いた人であったが、その経験に呼応するように『読む』ことと『書く』ことは対話のように行われるべきであると主張した」とあり、深く読むという経験に呼応して書きの経験が深まったという本文の内容に合致しません。④は、2ページ下段前半の内容に対応しています。本文中には、「それ(『読む』と『書く』を有機的につなぐこと)を実現する、もっとも簡単な行為は、心動かされた文章を書き写すことなのである」とあり、④の内容と合致しています。

㉓ 文学的文章

問1 語句の知識と登場人物の心情理解の問題です。「気難しい」とは「怒りっぽくて、機嫌をとりにくい様子」のことで、「父は、気難しい性格だ。」のように使います。おばあさんは、通りを行ったり来たりしていますが、その理由は、「緑町」の家に帰りたと思っているのに、帰ることができないからです。話しかけた「わたし」に、おばあさんは、「困っているような顔」をし、さらには、「怒ったように」言っています。語句の意味、さらには、おばあさんの表情や言動に合うものを選んでいくと、「人を寄せつけない、機嫌の悪そうな表情」とある**あ**が適切だとわかります。いの「気分がすぐれず、苦しそうな表情」、うの「心配ごとによって、落ちこんだ表情」、えの「心が満たされず、悲しそうな表情」は、いずれも適切ではありません。

問2 内容理解の問題です。直前の「あれ、と思った。だれかの家をさがしているのかな」に着目します。通りを行ったり来たりしているおばあさんを見て、「わたし」は、おばあさんは誰かの家を探しているのかもしれないと思っておばあさんのところに行き、「こんにちは」と話しかけています。正解は**え**で、「だれかの家を見つけられずに迷っているようなら、教えてあげようと思い立った」は、その場面での「わたし」の様子を正しく説明しています。**あ**の「興味をもち、親しくなろうと思い立った」、いの「自分の家に連れて帰って保護しようと思い立った」、うの「おばあさんの身元を確認しようと思い立った」は、いずれも適切ではありません。

問3 登場人物の言動の理由をとらえる問題です。おばあさんは、「わたし」に「帰らなきゃいけないの。緑町の家」「だって、帰らなきゃいけないのよ」と言っています。この近くに「緑町」というところがないことはあとでわかるのですが、おばあさんの頭の中には「緑町」は存在し、そこへ帰ろうと思っています。正解は**あ**で、おばあさんは、「歩いて帰りたと思っている緑町にある家がわからず、イライラして」怒ったように言ったのです。いは、「緑町にある家などないことは知っている」が、適切ではありません。おばあさんは、「緑町」に

家があると信じこんでいます。うは、「自分の家の誰もが、……^{さが}捜しに来ようとしめないから」が適切ではありません。おばあさんの頭の中にあるのは、「緑町」の家に帰りたいたいということだけです。えは、「『わたし』が、緑町の家はどこにあるのかを知っている」が適切ではありません。「わたし」は、おばあさんに「緑町はどこ？」と聞かれて、「さあ、わたし、わからないです」と答えているように、「緑町」そのものを知りません。

問 4 内容理解の問題です。「わたし」は、おばあさんの手を取り、おばあさんの歩調に合わせて、ゆっくりと自分の家に向かって歩きましたが、そのとき、「秋ちゃんを保健室に^{むか}迎えにいったときのこと」を思い出しました。秋ちゃんは、^{あき}図工の時間に写生をしていて、立ちあがろうとしたときよろけて校舎に^{もと}戻ったあと、そのまま保健室にいて、六時間目は授業に出ませんでした。そして、「わたし」は、六時間目が終わると秋ちゃんを迎えにいそいで保健室に行きました。保健室から出てきた秋ちゃんは、いつもの秋ちゃんでしたが、それでも、「わたし」は秋ちゃんの歩調に合わせて歩きました。なぜ、秋ちゃんの歩調に合わせて歩いたかという、もしも秋ちゃんが「またよろけたら、ちゃんとささえてあげよう」と思ったからです。おばあさんの歩調に合わせてゆっくり歩いたのも、秋ちゃんのとくと同じ理由からだったことがわかります。

問 5 登場人物の心情理解の問題です。図工の時間に、立ちあがろうとしてよろけた秋ちゃんが校舎に戻ったとき、「わたし」は、秋ちゃんといっしょに校舎に戻りたかったのですが、できませんでした。というのは、「『大げさだよ』って、ほかの人からいわれる気」がしたからです。秋ちゃんは、六時間目になっても席に戻らず、先生から保健室にいることを知らされました。「わたし」は、「あのあと、秋ちゃんはひとりで保健室にも行ったのだ。どんな気持ちだっただろう」と、秋ちゃんを心配するとともに、秋ちゃんを連れて校舎に戻らなかったことを^{こうかい}後悔しています。そのため、六時間目が終わると、いそいで保健室に行ったのです。この内容に合っている、うが正解です。あは、「秋ちゃんが、一人で保健室へ行くことができたことに^{あんど}安堵する気持ち」が、いは、「別の友だちがよりそっていたことをくやしく思う気持ち」が、えは、「大げさだと言う人を注意できなかったことを情けなく思う気持ち」とありますが、実際に「大げさだ」と言われたわけではなく「注意できなかったことを情けなく思う気持ち」というのも、それぞれ適切ではありません。

問 6 内容理解の問題です。通りでおばあさんに話しかけたとき、おばあさんの首からカードがぶらさがっているのに気づいた「わたし」は、おばあさんに「見てもいいですか？」と聞いています。そのとき、おばあさんは「怒った顔」のまま、うなずきました。そのあと、「わたし」は、おばあさんを自分の家の^{げんかん}玄関に連れてきて、おばあさんの家に電話をしました。電話が切れたあと、おばあさんは、「わたし」を見つめて「^{さくらこ}桜子ちゃん」と言い、「とってもなつかしそう」にしています。これらのことをふまえると、おばあさんの表情に変化があったことが読み取れるので、 A には、電話をかける前のおばあさんの「怒った顔」があてはまるとわかります。

- 問7 内容理解の問題です。おばあさんは、「わたし」を「桜子ちゃん」だと思っています。もちろん、「わたし」は、おばあさんがちがいをしていることはわかっています。それでも、「わたし」は、「ちがいます」（「わたし」は桜子ではない）とは言いません。「わたし」は、おばあさんを「いろんな記憶をなくして、それで困っている人なのかもしれない」と思っており、もし、「桜子ではない」とおばあさんに言ったら、おばあさんは「とつてもがっかりしそうな」気がしたので桜子ではないと否定しなかったのです。したがって、えが正解です。あの「ひどくあわてそうな」、いの「かなりびっくりしそうな」、うの「もっとぼんやりしそうな」は、文脈に合っておらず、いずれも適切ではありません。
- 問8 登場人物の言動の理由をとらえる問題です。直後の「おばあさんはちゃんと玄関にいた」に着目しましょう。おばあさんの家に電話をしたとき、「十五分くらいで着きます。そのあいだ、母をよろしくおねがいします」と、「わたし」は頼まれています。そういう事情もあって、「わたし」は、自分がキッチンに行っているあいだに、おばあさんが玄関から出ていき、再び「緑町」の家を探そうとするのではないかと心配したのです。したがって、あが正解です。いの「のどがかわいているおばあさんのことを心配して、……早く飲み物を用意してあげたかった」や、うの「飲み物をほしがっているおばあさんを待たせるのは気が引ける」という気持ちもあったと思いますが、それよりも、おばあさんが玄関からいなくなってしまうことのほうが心配だったのです。また、えの「おばあさんの知人から連絡があるかもしれないと不安になった」は、おばあさんが知人と連絡を取る、携帯電話のようなものを持っているという記述もなく、また、「わたし」は、すでにおばあさんの家族の人と連絡を取っているため、適切ではありません。
- 問9 内容を理解し、会話文を補充する問題です。会話の内容から、「わたし」が言ったものはあとい、おばあさんが言ったものはうとえになります。Cの前の「そうですか」は、「手袋」に関する話を受けての「わたし」の言葉なので、Cには、おばあさんの言葉が、そして、その内容は、「手袋」に続いて「帽子」に関するものだったと考えられるので、うが入ります。また、会話は、それぞれが交互に話すことで続いていくので、Dには「わたし」、Eにはおばあさん、Fには「わたし」の言葉が入ることになります。さらに、Fのあとは、おばあさんの「そんなに上手じゃないけど、……」という言葉なので、Fには、いの「お料理、上手なんですわね」が入ります。以上から、う → あ → え → い の順になります。
- 問10 登場人物の心情理解の問題です。この「女の人」の、「まあ、あなたが母を？」という言葉には、驚きの気持ちが込められています。「女の人」は、「わたし」に「お母さんはいらっしゃる？」と聞いていますが、「わたし」の「いま、わたしだけです」という言葉に驚いたのです。「わたし」は、おばあさんを「いろんな記憶をなくして、それで困っている人なのかもしれない」と思っていたが、おばあさんとの会話、さらには、「女の人」との会話によって、おばあさんはいろんな記憶をなくしていると確信しています。「女の人」は、当然のことな

がら、おばあさんが記憶をなくしていることを知っており、そのようなおばあさんを、幼い「わたし」が一人で保護してくれた上、電話をかけて自分に知らせてくれたことに驚いたのです。

問11 人物像の理解の問題です。本文は、「わたし」とおばあさんとの、思いがけない出会いについて書かれたものですが、途中に、秋ちゃんに関する思い出が書かれています。思い出すきっかけになっているのが、「おばあさんの歩調に合わせて、ゆっくり歩いた。」という一文です。「わたし」は、前に「秋ちゃんの歩調に合わせて歩いた」ことがありましたが、秋ちゃんとの間にあったできごとが、今の「わたし」にどのような影響を与えているかを、読み取っていきます。秋ちゃんが、図工の時間に立ちあがろうとしてよろけ、校舎に戻ったとき、「わたし」は、「だいじょうぶ？ ってきいてあげたかった。教室に連れて行ってあげたかった」のに、できませんでした。それは、「『大げさだよ』って、ほかの人からいわれる気」がしたからです。「わたし」は、そのときの秋ちゃんの気持ちを考え、自分の行動を後悔しました。そして、六時間目が終わると、保健室に秋ちゃんを迎えに行きました。「わたし」には、そのような過去があったのです。あは、「おばあさんに献身的な態度で接している」や「思っていることを素直に行動にうつせなかった過去をもつ」が、おばあさんへの「わたし」の態度、過去の秋ちゃんとの間のできごとに合っており、正解です。いは、「わたし」は、「怒ったようにいう」「怒った顔」のおばあさんに話しかけているので前半は合いますが、「相手の態度に遠慮して本心をいつわった過去をもつ」が適切ではありません。「わたし」は、「相手の態度に遠慮」して、秋ちゃんを教室に連れていかなかったのではありません。うは、「おばあさんを助けようとする行動がどことなくぎこちない」が適切ではありません。「わたし」は、おばあさんを自分の家に連れてきたり、おばあさんの家に電話をしたりと、てきばきと行動しています。えは、前半は合いますが、後半の「うまれもった行動力で色々な問題を解決することのできる人物」が適切ではありません。同じような後悔をくり返したくないという「わたし」の思いが、おばあさんとの接し方に反映されているのです。

問12 内容理解の問題です。「わたし」は、おばあさんを迎えにきた「女の人」に、おばあさんは「緑町に帰りたいっていっておられました」と言っています。これに対し、「女の人」は、「そうですね。緑町は母の故郷の町です」と言っています。したがって、 X には、「故郷の町」が入ります。また、桜子ちゃんについては、「わたし」の問いに、「女の人」は、「桜子さんは母の子どもだったときの一番の仲よしさんです。もう亡くなられたんですけどね。……」と答えています。したがって、 Y には、「一番の仲よしさん」が入ります。さらに、 Z に入る語句については、過去の、秋ちゃんとの間のできごとに関する後悔の気持ちが、おばあさんとの接し方に影響を与えているという点を考えると、いの「おばあさんと秋ちゃんを重ね合わせている」が正解です。あの「桜子ちゃんのようにになりたいと思っている」は、「わたし」は「桜子ちゃん」の実際の人物像を知らないので、適切ではありません。うは、「わびる」相手となる秋ちゃんは、本文では思い出の中に登場するだけであり、また、「わびる」のであれば、すでにわびていると思われるので、適切ではありません。えは、本文は「おば

あさんと桜子ちゃんのつながり」を主要なテーマとしてはいないので、主題としては適切ではありません。

三 漢字・語句

問1 漢字の読み書きの問題です。読み、書き、ともに、ていねいに書くという意識を持ちましょう。略字や雑で読めない字は正答になりません。①の「改革」の「革」は、筆順に注意が必要な漢字です。②の「除雪」は、「雪を除く」ことで、下の漢字が上の漢字の目的・対象を表す熟語です。③の「降」の音読みは「コウ」、訓読みは「ふ(る)」、「お(りる・ろす)」です。④の「奮発」の「奮」は、画数の多い漢字です。正確に書けるように筆順も覚えておきましょう。⑤の「就任」は、「任に就く」ことで、②の「除雪」と同じ構成の熟語です。⑥の「肥」の音読みは「ヒ」で、「肥満」「肥料」などの熟語があります。

問2 対義語の問題です。①「高価⇔安価」という対義語です。②「好評⇔悪評」という対義語です。③「空腹⇔満腹」という対義語です。④「往信⇔返信」という対義語です。

四 語句・言葉のきまり

問1 ことわざの知識の問題です。ことわざの中には、生き物の名前を用いたものがたくさんあります。日常生活の中で見たり聞いたりしたことわざがあったら、ことわざの本や辞書で意味を覚えましょう。①は、「ねこにかつおぶし」です。「ねこにかつおぶしの番をさせる」、つまり、「好きなものを近くに置く」ことは、「過ちを起こしやすく危険である」という意味になります。「ねこ」を用いたことわざには、他に「ねこに小判」(貴重な物でも、持ち主によっては何の価値もない)、慣用句には、「ねこのひたい」(面積がきわめてせまいことのとえ)や「ねこの手も借りたい」(いそがしくて人手が足りないことのとえ)があります。②は、「とらの威をかるきつね」で、「力のある者を利用していばること」をたとえたことわざです。「とら」用いたことわざには、他に「とらの尾をふむ」(きわめて危険なことのとえ)があります。

問2 四字熟語の知識の問題です。①「一つのことをして、同時に二つの利益を得ること」という意味の「イッキョリョウトク」は、「一挙兩得」と書きます。②「前置きがなく、いきなり本論に入ること」という意味の「タントウチョクニユウ」は、「単刀直入」と書きます。③「よい行いをした人にはよい報い、悪い行いをした人には悪い報いがあること」という意味の四字熟語が、「因果応報」です。④「追いつめられて、助かる見こみがないこと」という意味の「ゼツタイゼツメイ」は、「絶体絶命」と書きます。⑤「日に日に、驚くほどの速さで進歩すること」という意味の四字熟語が、「日進月歩」です。⑥「あることをきっかけに、心がけががらりと変わって望ましい方向にむかうこと」という意味の「シンキイテン」は、「心機一転」と書きます。したがって、誤った表記の四字熟語は、四つです。

問3 文節の係り受けの問題です。文節がどこにかかるかは、かかる文節と受ける文節を直接つな

げて、うまく意味が通るかどうかで確認^{かくにん}するとよいでしょう。①の「右手に」は、②「持った」にかかります。「赤い カサを 右手に 持った 女の子は、～」と語順を入れ換えても、意味は変わりません。②の「日本の」は、直後の③「輸出入に」にかかります。「日本の輸出入に 関する」とひとまとりになって、④「解説書だ」にかかっています。

問4 日本語全般^{ぜんぱん}に関する問題です。

- ① この文の主語は「習慣は」、述語は「書く」です。「習慣は、～書く。」という文では、主語と述語が対応しません。「習慣は」を主語にするなら、「寝る前の習慣は、その日にあったことを日記に書くことです。」、また、「書く」を述語にするなら、「寝る前の習慣として、私は、その日にあったことを日記に書く。」というような文にする必要があります。
- ② この文は、待っていた人たちに対し、「いたす」という謙讓語^{けんじょう}、「会長の山本です」と、役職名に続けて名前を言っているのが、正しい日本語です。なお、「会長」「社長」のような「長」の付く肩書き^{かた}は、役職名であると同時に敬意をふくんだ表現でもあります。したがって、「私が山本会長です」という表現は、自分に敬意を表していることになるので、誤った言い方です。
- ③ 「手ざわり」を、漢字を用いて表記すると「手触り」になります。「手触り」や「肌触り^{はだ}」には「良い・悪い」があります。これに対し、「耳ざわり」は「耳障り」、「目ざわり」は「目障り」と書きます。この「障^{しやう}」という漢字には、「さまたげる・じゃまになる」という意味があるので、「耳障りが良い」「目障りが悪い」という言い方は誤りです。この文は、「手ざわりのよいハンカチ」ですので、正しい日本語です。
- ④ 「気楽につきあえる」という意味の慣用句は「気が(の)おけない」です。この場合の「気」は、「気づかい」の「気」と考えてよいでしょう。この文は、「気のおける仲だ」となっていますが、正しい日本語としては、「気のおけない仲だ」となります。
- ⑤ 「大きなお世話」とは、他人の助力を拒否^{きよひ}するときの言葉で、「余計なお世話」という意味になります。先生に対して「大きなお世話をいただき」は、失礼な言い方です。「たいへんお世話になり」などとするとよいでしょう。

2023年度入試 桃山学院中学校 第1回プレテスト(11月12日) 成績参考資料

【プレテスト全体結果】

平均得点

教科	得点
国語	88.2
算数	65.3
国算計	153.5

受験者数	305
欠席者数	45

【6年選抜コース】

合格可能性	得点ライン	人数	平均点			国算計偏差値 平均
			国語	算数	国算計	
A(合格安全圏)	200	51	116.2	108.2	224.4	64.7
B(合格可能圏)	170	63	104.1	81.4	185.5	56.6
C(有望圏)	154	46	88.4	72.9	161.3	51.6

【6年進学コース】

合格可能性	得点ライン	人数	平均点			国算計偏差値 平均
			国語	算数	国算計	
A(合格安全圏)	170	114	109.5	93.4	202.9	60.2
B(合格可能圏)	154	46	88.4	72.9	161.3	51.6
C(有望圏)	125	58	83.7	52.9	136.6	46.5

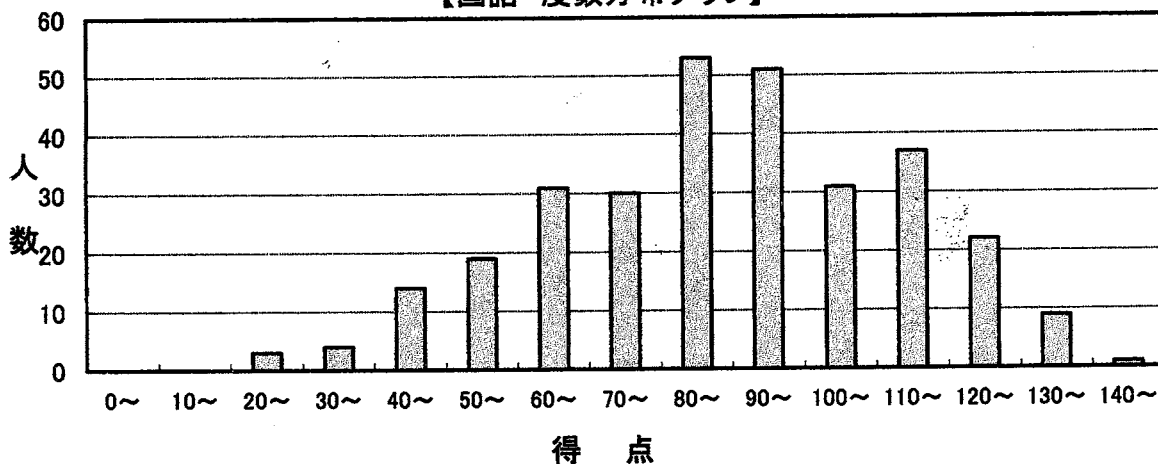
※表中の数値は、A・B・Cそれぞれの幅に入っている受験生の人数・平均点等を示しています。

2023年度入試 桃山学院中学校 第1回 プレテスト(11月12日) 合格判定基準詳細

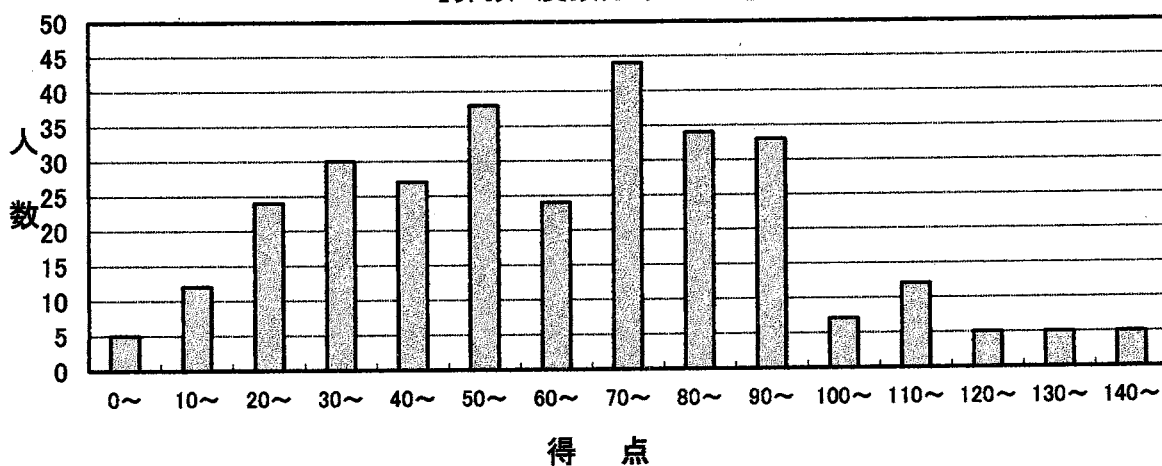
判定	内 容	2科目プレテストの基準点	
		選抜コース	進学コース
A判定 (合格安全圏) 合格率 90~98%	現在の国語・算数の実力から見れば、ほぼ安全圏です。 ただし、A方式入試には理科・社会もあります。理科・社会の得点も合格には大きな影響を及ぼします。国語・算数に関しては、今の調子を維持し、体調管理にも気を配り、万全の態勢で入試に臨んでください。油断は禁物です。A~C方式までチャレンジすれば合格は確実なものとなります。	200/300	170/300
B判定 (合格可能圏) 合格率 80%~95%	現在の国語・算数の実力から見れば、「合格」の可能性は大いにあります。この実力を入試本番までにさらに高めるように、より一層の努力を期待しています。 ただし、A方式には理科と社会の試験があります。理科もしくは社会が得意か不得意かにより合否は大きく影響されます。理科もしくは社会が得意な生徒は、限りなく合格に近づけます。 入学試験には、「自信」をもって臨んでください。また、A~C方式まで粘り強くチャレンジすれば「合格」の可能性は更に高まります。	170/300	154/300
C判定 (有望圏) 合格率 50%~80%	現在の国語・算数の実力から見れば、合格圏内に入るには今後の努力が必要です。国語・算数に関しては、これまでの学習を振り返って、自分の弱点を見つけ、その補強に努めて下さい。全体の得点率の高い基本問題は確実に解けるように頑張りましょう。これからの頑張り次第では、十分「合格」をねらえます。 A方式には理科と社会の試験があります。理科もしくは社会が得意か不得意かにより合否は大きく影響されます。理科もしくは社会が得意な生徒は、限りなく合格に近づけます。また、A~C方式まで粘り強くチャレンジすれば「合格」の可能性は更に高まります。	154/300	125/300
D判定 (努力圏) 合格率 10~40%	現在の国語・算数の実力から見れば、「合格」するためには、かなりの努力が必要です。国語・算数に関しては、これまでの学習を振り返って、自分の弱点を見つけ、その補強に努めて下さい。全体の得点率の高い基本問題は確実に解けるように頑張りましょう。 A方式には理科と社会の試験があります。理科もしくは社会が非常に得意な生徒は、合格する可能性もあります。また、A~C方式まで粘り強くチャレンジすれば「合格」の可能性はかなり高まります。	/	/

2023年度入試 桃山学院中学校 第1回プレテスト(11月12日実施) 教科別総括

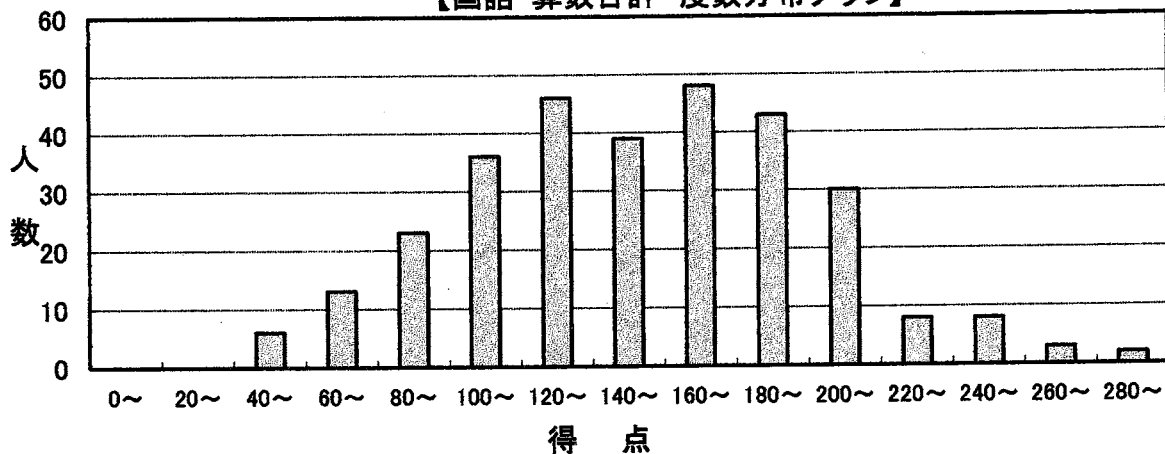
【国語 度数分布グラフ】



【算数 度数分布グラフ】



【国語・算数合計 度数分布グラフ】



【国語】

◆大問一

「会話」と「対話」の違いについて論じた上で「読む」とは「書く」とはについて続いて論じた文章。他者や文章を理解するためには深く自分の中に取り込む必要がある。日常世界でも意識しておきたい内容で、文章読解には対比構造を素早く理解する必要がある。

正答率が高かった問題

問7のⅠ・Ⅱ。本文内容理解を問う問題で、文の空欄に本文中の語を入れる問題。キーワードを押さえながら読む習慣をつけておくことで取りやすい問題になります。

正答率が低かった問題

問4の傍線部分の説明問題。何となくこういうことを言っているだろう、と思わず、傍線部分の根拠になる箇所に印をつけて、傍線部分を言い換えているかどうかの確認をようにしましょう。

◆大問二

「わたし(持沢香衣)」が町で困っているおばあさんを見つけるが、そのおばあさんは「緑町」に帰りたいようだが、その場所がわからない。どうも認知症を抱えているおばあさんのようで、「わたし」はかつて級友が困っている時に手助けしてあげられなかったことを思い出し、おばあさんの介助をしようとする。

正答率が高かった問題

問3・5。本文内容理解の選択問題。基本的な流れは押さえることは出来ていたようです。

正答率が低かった問題

問12のX。本文から語を抜き出す問題だが、設定した文に当てはまるように抜き出せていないものが多い印象です。この辺だろうと思っても、設問に合うかどうかを意識する習慣をつけましょう。

◆大問三

正答率が高かった問題

問1の④・⑤・⑥。漢字の読み問題はよく出来ていました。漢字は「読み・書き」をセットで覚えるようにしましょう。

正答率が低かった問題

問1の②の書き取り問題。「除雪」という言葉になじみがなかったのかもしれませんが。また問2の④の対義語を作る問題。「往信⇄返信」もなじみがなかったのかもしれませんが。漢字の練習をする時は「記号」のように暗記するのではなく、漢字の意味を理解すると忘れにくくなる上に応用力がきます。

◆大問四

正答率が高かった問題

問4の③・⑤。文の構成や言葉遣いの理解を問う問題。少しでも気になったらすぐに辞書を引く習慣をつけましょう。

正答率が低かった問題

問2の四字熟語の問題。「誤った表記」の個数を問うたが、「正しい表記」の個数を選んだと思われる。パッと見て「こういう問題だろう」と決めつけず、設問をしっかりと読むようにしましょう。

【算数】

◆大問1 (計算問題)

4問とも全体的に良くできていました。全てがおおよそ同じ平均点でしたので特に(1)(2)を絶対落とさない勉強を心がけて下さい。分数や小数を含む計算や計算の途中が穴抜きになっている問題は毎年出題しています。間違えた人は、解き直してどの部分で間違えたのか確認し、復習しておいてください。

◆大問2 (小問集合)

基礎的な内容を幅広く出題しています。配点が高い大問なので、充分に対策をしてください。(1)～(4)は多くの人ができていましたが、逆に(5)(6)はほとんどの人ができていなかった問題です。

(5)は、まず問題の内容を勘違いしていた人が多かったように思います。まずは落ち着いてしっかりと問題を読みましょう。(6)は1本の線を加えることでかなり解きやすくなるのですが、それに気付かなかった人も多かったようです。大問2に関してもまずは(1)～(4)でしっかりと得点できるように準備していきましょう。

◆大問3 (拡大・縮小の問題)

(1)はよくできていました。同じような形の図形がある場合は、まずは拡大・縮小の関係がないか探してみましょう。(2)は少し複雑で平均点も伸びていませんでした。ここでもまずは(1)を確実に得点できるようにしてください。

◆大問4 (速さの問題)

(1)は良くできていました。(2)(3)については、ろうそくA、Bの長さが1分間にどのように変化するかを目をつけることがポイントでした。また問題文が長い場合は、問題の内容が理解できるまで何度か問題を読み直すことも重要です。

◆大問5 (和と差の文章題)

非常にできが悪かったです。確かに少し難しかったかもしれませんが。いわゆる「つるかめ算」の問題ですね。つるかめは2種類なのに、立体は3種類あるところが違います。でも、正方形があるかないかに着目すると、2種類に分かれます。そこがポイントです。

◆大問6 (規則性の問題)

(1)は、比較的に取れている人も多かったです。まずは整数がどのように並んでいるかを正しく見極めて下さい。その後、各段の、各列の数字に規則性があるのかどうかを確かめてみましょう。